

最新統計

人口の推移

(単位:人)

市町名	平成17年 10月1日	平成21年 4月末	平成21年 5月末	平成21年 6月末
気仙沼市	66,423	64,317	64,263	64,244
本吉町	11,588	11,311	11,311	11,306
南三陸町	18,645	18,214	17,949	17,938
合計	96,656	93,842	93,523	93,488

世帯数の推移

(単位:世帯数)

市町名	平成17年 10月1日	平成21年 4月末	平成21年 5月末	平成21年 6月末
気仙沼市	22,183	23,116	23,119	23,147
本吉町	3,327	3,490	3,493	3,493
南三陸町	5,335	5,361	5,362	5,367
合計	30,845	31,967	31,974	32,007

気仙沼魚市場水揚げ実績 (数量:トン, 金額:千円)

漁業別	平成21年7月		前年同期比	
	数量	金額	数量	金額
鮪延縄	1,883	336,369	171	155,900
鯉一本釣	4,291	1,051,390	6,147	1,280,053
秋刀魚受網	-	-	-	-
近海大目流網	919	233,267	649	174,848
旋網	2,852	1,145,833	1,085	7,574
定置網	980	71,787	59	22,410
船凍鮪延縄	9	548	9	548
冷凍いか釣	-	-	-	-
曳網・抄網	-	-	-	-
搬入	203	186,937	43	16,096
その他	129	81,874	29	11,201
合計	11,266	3,108,005	7,570	1,597,792

7月水揚げは、「カツオ一本釣り」や「大目流し網」の不振により前年比金額34%減となった。

外尾川改修工事完了

(気仙沼土木事務所河川班)

本吉町小泉地区を流れる、二級河川津谷川の支流外尾川(そでおがわ)の改修事業が完了しました。

外尾川は、小泉地区の集落を貫流して津谷川に合流する二級河川です。

集落内は平成13年度までで廃止となった補助事業により改修されていましたが、集落上流の河道は川幅が狭く、河道が蛇行し、かつ直角に曲がる箇所もあり洪水に対して脆弱な状態でした。



外尾川が改修された様子

平成14年7月の台風6号による洪水が集落上流において越水氾濫し、耕地の冠水、町道の通行止め等大きな被害

が発生しました。

このため、平成16年度から県単独事業により上流部560mの改修に着手しました。改修計画では川幅を従来の約2倍とし蛇行部の修正を行い、約50mmの時間雨量に耐えられる計画としました。

地元から用地及び工事への協力をいただき、この7月に計画区間の改修が無事完了し、地元の皆さんから洪水への不安が払拭されたと喜ばれています。

「レジ袋使用削減取組協定」締結式の開催

(気仙沼保健福祉事務所環境廃棄物班)

県では廃棄物の発生抑制事業として昨年度からレジ袋使用削減に関する取組を行っており、気仙沼地域でもレジ袋使用削減を目的に各団体と協定をむすび、その締結式を4月7日及び6月16日に当事務所で開催しました。

レジ袋使用削減取組協定とは、小売業者・住民団体・行政が協定を締結することによりレジ袋使用削減に向けて、小売業者はレジ袋の無料配布を原則と

して取りやめ有償提供する。住民団体は地域住民に対するマイバックの持参を呼びかける。行政は取組に関する各種広報を行うこととしております。協定参加者(5小売店業者:7店舗,10住民団体)による各種活動により,当小売店舗でのマイバック持参率は80%を超えています。

みなさんもこの事業の趣旨をご理解の上,買い物の際はマイバックをご持参ください。

<参加小売店舗>

ジャスコ新気仙沼店,ウジエスーパー志津川駅前店,マイヤ気仙沼バイパス店,スーパー片浜屋各店(公立病院前店・はまなす店・古町店),デイリーポート新鮮館気仙沼店



締結式の様子

高齢者叙勲の伝達

(総務部総務・管理班)

平成21年7月1日付けで本吉町在住の岩淵茂氏(88歳)に旭日単光章の受章が決定され,平成21年7月28日に当事務所長から勲章等の伝達を行いました。



叙勲の伝達の様子

岩淵氏は,平成55年1月に本吉町議会議員に初当選し,以後平成7年12月までの4期16年を議員として活動し,この間,昭和63年から平成3年まで同議会副議長,平成4年から平成7年まで議長を歴任したほか,気仙沼・本吉地域行政事務組合議員や本吉町総合計

画審議会委員なども務め,地域の生活・産業基盤の整備促進に取り組み,地域の振興発展に寄与されました。

当日,娘さんとともに出席した岩淵氏は,「あたりまえのことをしただけなのに叙勲を受けるなんて気恥ずかしい。地域のみなさんの協力に感謝したい。」と,ひかえめながら喜びを語っていただきました。

キクラゲ植菌体験会を開催しました

(農林振興部林業振興班)

里山の再生を目的とした「南三陸 里・山のちから再生事業」の一環として,南三陸町の住民(今回は子育て支援センター利用の親子)を対象としたキクラゲ植菌体験会を南三陸町ひころの里で開催しました。地元森林組合職員の指導もと,親子20組が1組当たり2~3本のほだ木に植菌しました。

初めての体験に子供達も戸惑いながらも楽しんで行うことができました。キクラゲが発生する秋には,試食会を行う予定です。



キクラゲ食菌体験の様子

菜の花鑑賞交流会を開催

(農林振興部農業振興班)

遊休農地再生の取組として,地域住民と仙台市等に在住のボランティアが昨年秋に播種した菜の花が見頃を迎えたことから,5月10日に南三陸町歌津地区において菜の花鑑賞交流会を開催しました。

交流会は,地元農業者,ボランティア,関係機関等30名の参加のもと,菜の花観賞の他,地域の旬の食材を用いた調理体験や,里芋,さつまいもの植え付けを行ない,交流を深めました。

参加者からは,農作業体験の時間をもっと増やすことや,地元農業者との腰を据えた話し合いを希望

する意見が出されました。今秋には植え付けした里芋とさつまいもの収穫作業を行うことを約束して終了しました。



菜の花鑑賞交流会の様子

農機具展示会を開催

(農林振興部農業振興班)

南三陸農協本店において、7月8日に農協や市町の協力のもと農機具展示会を実施しました。

展示会は、経済危機対策の一環として急遽実施されることになった「食料供給力向上緊急機械リース支援事業」を気仙沼本吉管内の認定農業者へPRし、実施希望者に対して事業説明と申請手続きを支援することを目的に開催したものです。

事業対象機械は多種にのぼることから、農地面積



農機具展示会の様子

が狭く傾斜地が多いといった当地域の特徴を考慮してクローラー式トラクターや自走式堆肥散布機等に

機種を絞って展示しました。

申請手続きの方法や申請期限について詳しく質問された農業者もあり、当事業の利用が経営向上に大きく寄与するよう期待されます。

「宮城県農村振興施策検討委員会」が開催される

(南三陸支所農業農村整備班)

本委員会は県条例により平成19年度に農村の振興のための施策に関する重要事項を調査審議する

目的で設置され、委員を外部の有識者に委嘱し運営しています。

7月27日に良好に活動している登米気仙沼管内の3地区について7人の委員による現地調査がありました。うち南三陸町から下記2つの活動が対象となりました。

中山間地域等直接支払い交付金

「山の神平1集落」

地域一帯での営農活動のほかファームステイの受け入れなどの活動

中山間地域活性化事業

「林際地区ふるさと水と土保全隊」

農道や土地改良施設周辺で植栽や水質浄化活動を実践



林際地区説明状況(7月22日)の様子

両組織とも地域資源を活用した地区内外の人と交流する活動が委員に好印象で農村振興施策の有用性がアピール出来ました。

また、南三陸支所管内では中山間地域等直接支払い交付金を73協定で実施していますが、本年度は2期対策5年間の最終年度です。現在、次期対策へ向けて国において検討されている状況ですが、事業の評価は高く次期対策の継続が現場関係者の要望となっています。このため、農業農村整備班では活動組織代表へ国の動きや最新情報の提供や意見を聞き取る懇話会を8月5日に開催するなどスムーズな移行を支援しています。

市民と農業者の交流の場

「にいつき軽トラ市」が開催中

(本吉農業改良普及センター地域農業班)

昨年8月から始まった「にいつき軽トラ市」は、今年度も引き続き毎月第一、第三土曜日に開催されており、毎回多くの来場者で賑わっています。

この「にいつき軽トラ市」は、気仙沼市新月地区の農業者らが、国道284号線のにいつきパーキング多目的広場を会場にして、地元で収穫された農産物を軽トラックの荷台に並べて販売するものです。



にいつき軽トラ市の様子

現在35名の会員が参加していますが、回を重ねるごとに品揃いが充実し、来客への対応も上手にな

ってきました。

今年度最初の開催日である5月23日には、15台の出店者がタケノコやワラビの水煮、野菜の苗や切り花、漬け物など様々な品目を荷台に並べ、品定めをする来場者らの質問に答えていました。また、9時半と10時半には、今年の市が盛況となることを祈願して来場者への餅まきも行われました。

普及センターは軽トラ市開催時の出店指導を行うとともに、出品する野菜等の栽培方法や農産加工品の販売方法などを指導しています。

新たな地産地消の拠点

「農産物直売所「菜果好」(なかよし)」オープン

(本吉農業改良普及センター地域農業班)

当地域には固定店舗で対面販売を行っている農産物直売所が21施設ありますが、22店舗目となる直売所「菜果好(なかよし)」が、南三陸農協気仙沼営農センター内に完成し、7月20日午前8時から、関係者によるオープンセレモニーが執り行われました。

オープン時には、開店を待ちかねて来店した市民ら約70人が、地元産の安くて新鮮な野菜等を品定めし、たくさん買い求めていました。

この直売所では、地元気仙沼市を中心に登録した生産者約100名が、安心感や季節感のある新鮮な野菜や農産加工品などを年中無休で提供することになっています。



菜果好の外観

当地域では農地の多くが中山間地に存在するなど厳しい営農条件にありますが、新たな農産物直売所の開設

と直売所を核とした地産地消の取組は、農業所得の増大や地域農業の振興等へ大きく貢献するものと期待されています。

普及センターでは、これまで農協と連携し、販売品の表示方法や間伐材を活用した陳列棚、木箱コンテナ利用などについて支援してきました。今後は、年中繁盛する直売所づくりに向けて、計画的な品揃えや生産者の組織化・運営などを支援する予定です。

JA南三陸花卉部会がエコファーマーを取得

(本吉農業改良普及センター先進技術班)

6月5日、宮城県南三陸合同庁舎で、JA南三陸花卉部会33名に対して「エコファーマー」の認定証授与式が行われました。

今回認定を受けたJA南三陸花卉部会は、南三陸町で輪ぎくを栽培する生産者からなり、慣行栽培より農薬や化学肥料の使用量を減らして、施設・露地栽培によるきくの周年栽培を行っています。

式では、気仙沼地方振興事務所長から認定者に一人ずつ認定証が手渡され、「安全・安心は農業の基本。今回の認定をスタートとし、農業生産の拡大、地域の農業発展に向け精進して欲しい。」と激励の言葉がありました。

これで、昨年認定された部会員を合わせると、花卉部会のエコファーマー認定者は36名となりました。



認定授与式の様子

本吉町でアスパラガスの生産が増加する

(本吉農業改良普及センター先進技術班)

本吉町内では近年、アスパラガスの栽培に取り組む生産者が増えています。有機肥料「もとよし有機」をふんだんに使って土づくりを行ったほ場で作られた地元産アスパラガスは鮮度が高く、品質も良好で人気が高く、今年は昨年に比べ約3倍の出荷量となるものと見込まれています。春芽の出荷は4月13日から始まり、ピーク時には1日あたり400束が地元市場へ出荷される日もありました。



アスパラガスの現地検討会の様子

5月1日には本吉町直伝において、アスパラガスの現地検討会が開催されました。検討会には約15名の生産者と本吉町およびJAの担当者が参加し、昨年の栽培管理状況からみた今年の春芽の生育・収穫について勉強をしました。

普及センターからは「昨年の管理のよし悪しが、今年の春の収穫に影響している」と説明し、生産者は今後の管理が来年の収穫に重要な要素となることを理解した様子でした。

今後の栽培管理に関する講習の中では、立茎の方法や病害虫防除に関して活発な質問が寄せられ、安定生産技術の習得に対する生産者らの意欲を伺うことができました。

マリンチャレンジスクールの開講

(水産漁港部水産振興班)

7月30～31日に、気仙沼市魚市場や気仙沼向洋高校等を会場として、管内3中学校から15名の中学3年生が参加し、「マリンチャレンジスクール」を開講しました。本スクールは、管内中学生(2～3年生)を対象に、本県における水産業に関する初歩的な知識



加工場見学を終えて記念撮影

(漁獲～水揚～加工利用)、漁業の動きなどを講習し、水産業への理解と関心を深めることを目的としており、

本地域の基幹産業である水産業に直に触れる機会でもあります。

1日目は、気仙沼市魚市場見学、水産加工場見学(阿部長マーメイド食品)を行うとともに、本県水産業の概要を勉強し、漁業士から「海での仕事について水産業の魅力 - 」と題した講演を聴きました。市場では水揚げされたカツオやメカジキ、サメを目の前にして、怖々触ってみたり、水産加工場見学ではマイナス45度の冷凍庫へ入り、普段体験できない世界を体験しました。漁業士の方からは、「仕事としての漁業」と「海の魅力」について漁業者の視線から分かりやすく説明され、話を熱心に聞き入る姿が見られました。

2日目は、気仙沼向洋高校を会場として、向洋高校の説明、実習船「シーラス」の乗船体験、ロープワーク教室や操船シミュレーション等を行いました。梅雨の晴れ間がのぞく中、気仙沼湾をクルージングすると、「普段は見られない海から陸を見ておもしろかった」などの感想が聞かれました。ロープワークでは四苦八苦しながら基本的な結び方を教わりました。

中学3年生の夏ということもあり、将来の進路を決める一助となることを願うとともに、水産業に興味を持ち、宮城の水産サポーターとなることを期待しています。

ギンザケの水揚げ終了

(水産漁港部水産振興班)

本年度の養殖ギンザケの水揚げが8月4日で終了しました。



ぎんざけの選別・出荷作業の様子

今年の管内の生産数量・金額は、2,969トン(前年2,291トン)、13億1,861万円(前年10億5,600万円)で、前年に比べ数量で約30%、金額で約25%それぞれ増加となりました。平均単価は444円/kgで前年の98%でした。なお、県全体では生産量は15,200トン(前年12,803トン、金額集計中)で、数量で約19%増加しました(いずれも一部推定値を含む)。

春先に一部地域で餌食いが鈍く成長の遅れが心配されましたが、その後順調に成長し、最終的には単価の低下分を生産量がカバーするとなりました。

しかしながら、近年は燃油のみならず餌料や稚魚代も高騰するなど、昨年に比べて漁業経費が2割程度増えており、漁家経営にとっては、厳しい状況が続いています。

このような状況の中、近年、各メーカーが餌の改良などに積極的に取り組み、品質も向上していることから「ブランド化」が進み、おいしいギンザケが皆さんの元へ届けられています。

ホタテガイ種苗の採苗状況について

(水産技術総合センター気仙沼水産試験場・

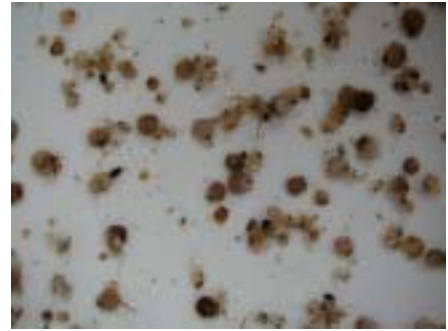
水産漁港部水産振興班)

管内ではホタテガイ養殖が盛んに営まれており、養殖用種苗の多くを天然採苗により確保しています。

水産技術総合センター気仙沼水産試験場及び水産漁港部では、各漁協支所の青年研究会及び南三陸町と協力して、毎年5月から6月にかけて、浮遊幼生(ホタテガイの赤ちゃん)の出現状況調査を行っています。今年も5月中旬～6月上旬にかけて浮遊幼

生の出現が多く確認され、この時期を中心に採苗器の投入が行われました。

その後、8月上旬に管内各地区の採苗器にどれ位ホタテガイの稚貝が付着した



採苗袋から集められたホタテガイの稚貝

かを調査したところ、10mmを中心とした大きさの稚貝が採苗器1袋当たり120～6,000個確認され、概ね例年並みの付着状況となりました。稚貝は、これから2年間三陸のきれいな海で育てられ、おいしいホタテガイが食卓へ届けられます。



採苗袋から稚貝を選別

ふか肉料理の講習会が開催される

～ 生産量日本一 ふか肉料理に挑戦! ～

(地方振興部商工・振興班)

気仙沼市唐桑公民館主催によるモウカサメ肉(ふか肉)を用いた料理講習会が、平成21年7月2日(木)に唐桑保健福祉センター「燦さん館」で開催されました。

講習会には16人が参加し、「ふか肉甘酢あんかけ旬の野菜入り酢豚風」などの料理に挑戦しました。参加者からは、「思ったよりも臭みがなく、柔らかくて美味しい」、「調理して出されるとサメと分からない、まるで普通の白身魚のようだ」という意見が出され、大変好評でした。今後、地域の婦人会でもふか肉を用いた料理教室等を行いたいとのことです。

なお、気仙沼地方振興事務所では、ふか肉の利

用促進を通じた地域の活性化を目指し、地元飲食店などのご協力を頂きながら、ふか肉の地域食材としての利用が進むよう、これまで試作してきたふか肉料理メニューを一般家庭向け・飲食店向けのレシピ集として作成しています。“気仙沼ならではの”のレシピ集を、是非、ご利用ください。



講習会で作られた料理

企業立地から地域活性化を考える研修会の開催

(地方振興部商工・振興班)

6月30日に気仙沼合同庁舎で「企業立地から地域を考える研修会」が開催され、気仙沼・本吉圏域1市2町の民間企業・団体及び行政機関から40名以上の方々が参加しました。

この研修会は、気仙沼・本吉圏域への企業立地と産業振興について考えるため、気仙沼・本吉地域政策調整会議企業立地推進部会が主催したもので、花巻市技術振興協会の佐藤利雄事務局長から「企業と地域で、活力のタネさがし」をテーマに御講演いただきました。

講演では、1)コミュニティ活動としての企業誘致、2)花巻市の取り組みである内発型振興策(企業誘致・商業振興・雇用対策に、事業をタネにインキュベートを軸とした地場産業の育成・支援を加えたもの)、3)花巻市起業化支援センターの概要、4)岩手県に



研修会の様子

おける産学官連携、5)起業・企業支援の取り組みとコーディネートの仕組みに関する話があり、今後

の企業立地に向けた「組織としての取り組み」及び「個人としての取り組み」についての大変貴重なアドバイスをいただきました。

部会メンバーは、企業立地や地域活性化を進めるための組織づくりや人づくり、ネットワークの構築の重要性やその手法を学ぶことができました。

【あとがき】

いつの間にか稲穂が垂れ始めていることに気づき、残暑の中にも秋の気配が感じられるようになりました。今夏は梅雨明けが特定されず、海から「やませ」の風も続いたことから冷害が心配されましたが、お盆過ぎ以降の好天で何とか生育も回復しているようです。江戸時代の飢饉史には「飢饉は海より来るものなり」と書かれているそうです。まさに我々の生活が海と密接につながっていることに改めて思いを馳せた今年の夏でした。

さて、いよいよ実りの秋ということで新米・果物など太陽の恵みをはじめ、当地では脂の乗ったサンマ、戻りカツオ、秋サバ、秋サケ、生ガキなど豊かな海の恵みが勢揃いするうれしい季節を迎えます。「天高く、馬肥ゆる秋」とは、空が高く澄み馬もたくましく太るといふ秋の良い気候を表した言葉ですが、このまま自然災害など起きず穏やかな秋が続くよう天に祈るばかりです。